

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画の策定について

<背景と目的>

・屋久島世界自然遺産地域の世界自然遺産としての価値を維持していくためには、科学的な知見に基づき順応的に管理していく必要がある。具体的には、世界自然遺産地域及び周辺地域におけるモニタリングを実施し、その結果を評価することで各種管理計画の見直しや各種事業の改善を行う。

・2012年度から長期的なモニタリングに包括的に取組むため、モニタリング計画の策定等を通じてモニタリングの実施内容の検討や体制整備を行う。

・モニタリングを行政機関等により継続的に実施していくためには、毎年、実施すべき調査がほぼ一定の調査内容（作業量）であることが望ましい。そのため、5年又は10年程度の期間におけるモニタリング計画を作成し、年度毎の調査内容（作業量）はなるべく均一なものとする。また、モニタリング計画においては各行政機関等の役割分担を明確に示す。

・行政機関等はモニタリング計画に基づき事業実施内容を決定し、当該年度に実施すべきモニタリング、調査を可能な範囲で実施する。なお、必要に応じて年度毎に各機関の役割分担を見直すとともに、調査手法についてもこれまでの状況に応じ簡素化を実施するなど、柔軟に見直すものとする。

<モニタリング計画の位置づけと考え方>

・モニタリング計画は、屋久島世界自然遺産地域管理計画に基づき、科学的な知見による遺産地域の順応的管理を推進するための計画とし、管理計画の下に位置づけられる。

・モニタリング計画は、各種計画や事業等の実施状況を評価し、順応的に管理を実施するために必要なモニタリング項目や調査手法を規定するものであり、各種制度の運用や各種事業の推進を規定するものではない。そのため、パブリックコメント等は実施しない。

<計画策定までの手順>

(これまでの経緯)

○2009年度

- ・第2回科学委員会

継続的に実施すべきと考えられるモニタリング項目（案）と現在までの実施状況について整理・検討。

○2010年度

・第1回科学委員会

継続的に実施すべきと考えられるモニタリング項目（案）のうち、管理機関が現実的に実施可能なモニタリング項目（案）を抽出し、評価指標・基準を整理。

（今後の予定）

○2011年度

・第1回科学委員会

管理機関が継続的に実施するモニタリング項目（案）と今後10年間の実施予定を含むモニタリング計画（案）の検討。

・第2回科学委員会

モニタリング計画の決定。

○2012年度以降

モニタリング計画に基づくモニタリングの実施・評価、計画の見直し

※参考（2010年度 第1回科学委員会におけるモニタリングに係る主な意見）

- ・ モニタリング項目としては、遺産管理に係るものに限定するべき。
- ・ 登山利用者の動向については、警察が所有する入山届が閲覧可能であれば把握は可能である。また、利用者が増えている西部地域の利用状況の実態把握について行う必要がある。
- ・ 種子屋久観光連絡協議会が実施している屋久島への入込客数には、地元の方やビジネスマンなども含まれており、観光客数を正確に推定できていない。また、入り込み地点での利用者の把握は特定の地域に限られており、登山客や観光客の動態把握を行うには、データとして不十分である。港・空港などの入り込み時点で、観光客全体を対象として、アンケート形式による行動パターンや意識調査などを行う必要がある。
- ・ 遺産地域などの山岳部における哺乳類の生息状況については、猟友会などにアンケートをとるなどして、調査・把握する必要がある。
- ・ ヤクシカのモニタリングについては、目視調査も実施した方が良い。また、ハンターはヤクシカのモニタリングに関して有用な情報を持っており、ヤクシカのモニタリング内容については、ハンターなどから得る情報を含め、調査すべき項目を整理する必要がある。
- ・ タヌキ、ネコ、イヌなどの外来種の動物のモニタリングについては、大きな経費を必要としない方法もあるので、調査の実施について検討をお願いする。
- ・ 世界遺産地域外で分布を拡大しているアブラギリやイヌなどの外来種については、この世界遺産地域の管理機関によるモニタリングとは別に考える方がいいと思うが、これら外来種の分布拡大は遺産地域と切り離せない問題でもある。研究者がサポートするほかに、研究者と行政機関の情報交換、現地をよく承知しているガイドの協力を得て情報を収集するなどして屋久島全体で見えていく必要があると考える。

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画（骨子案）

1. 目的

屋久島世界自然遺産地域（以下「遺産地域」という。）の自然景観と生態系については、科学的知見に基づき順応的に管理を行う必要がある。このため、環境省九州地方環境事務所、林野庁九州森林管理局、鹿児島県、屋久島町（以下「関係行政機関」という。）は、関係団体、専門家等と連携してモニタリングを推進するとともに、その結果に応じて保全方法や利用方法の見直し等を行い、より効果的な手法により遺産地域の管理を行うこととしている。

この計画では、科学的知見に基づく順応的管理を推進し、遺産地域の自然景観及び生態系、並びにその価値を後世に引き継いでいくため、今後10年程度において、関係行政機関が実施するモニタリング項目及びその内容を規定するとともに、モニタリング結果の評価の基準とその手順を明らかにする。

2. モニタリングの基本方針

世界遺産の普遍的価値が維持されているかをモニタリングするとともに、気候変動が遺産地域に及ぼす影響を把握するために、遺産地域の4つの管理目標にあわせて6つの評価項目を設定し、評価項目に基づいたモニタリング項目及びその内容を設定する。

管理目標Ⅰ 基礎的環境情報が把握されていること

管理目標Ⅱ 天然スギに代表される特異な自然景観が維持されていること

評価項目A 天然スギ林が適切に保護・管理され、天然スギが持続的に世代交代すること

評価項目B その他の特異な自然景観資源が適切に保護・管理されていること

管理目標Ⅲ 植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること

評価項目C 植生の垂直分布が維持されていること

評価項目D 生物多様性が維持されていること

管理目標Ⅳ 観光客等による利用及び人為活動等が世界遺産登録時の価値を損なっていないこと

評価項目E 観光客等による利用が適正に管理されていること

モニタリングの実施にあたっては、関係団体、専門家、その他の機関等との緊密な連携・協力を図り、屋久島世界自然遺産地域科学委員会（以下、「科学委員会」という。）の助言を得るものとする。

3. モニタリング項目

遺産地域の順応的管理の推進のために、以下のモニタリングを実施する。なお、モニタリングの詳細な内容、計画期間のモニタリング実施予定は、それぞれ別表1・2に定めるとおりである。

管理機関が継続して実施するモニタリング項目

モニタリング項目		評価指標 (調査項目)		実施主体					実施頻度
				環境省	林野庁	鹿児島県	屋久島町	その他	
1	気象データの測定	1	気温、湿度、地温、土壌水分、降水量等	●	●	●		●	10分毎～毎時
2	大気組成、水質測定	2	降下ばいじん量			●			毎月
		3	pH, DO, BOD, COD, SS, 大腸菌群数			●			4年毎
3	天然スギ林の現状把握	4	天然スギ林の面積		●				10年毎
4	天然スギ林の動態把握	5	天然スギ林の種組成及び階層構造	●	●				5～10年毎
5	著名ヤクスギ等の巨樹・巨木の現状把握	6	著名ヤクスギである各個体の枝数、葉量	●	●				毎年
6	その他の特異な自然景観資源の現状把握	7	特異な自然景観資源の現況	●					毎年
7	植生の垂直分布の動態把握	8	群集、種組成及び階層構造	●	●				5～10年毎
8	ヤクシカの動態把握及び被害状況把握	9	ヤクシカの個体数	●	●				1～5年
		10	ヤクシカの捕獲頭数		●	●	●		毎年毎
		11	ヤクシカによる植生被害及び回復状況	●	●			●	1～5年毎
9	希少種・固有種の分布状況の把握	12	林庄部の希少種・固有種の分布・生育状況	●					5年毎
		13	ヤクタネゴヨウの分布・生育状況		●				5年毎
10	外来種等による生態系への影響把握	14	外来植物アブラガリの分布状況		●				毎年～5年毎
11	高層湿原の動態把握	15	湿原の面積		●				5年毎
		16	湿原の水深、土砂堆積深及び落ち葉だまりの分布面積		●				5年毎

12	高層湿原植生の動態把握	17	湿原植生群落の分布、種組成		●				5年毎
13	利用状況の把握	18	屋久島入島者数			●			毎日
		19	主要山岳部における登山者数	●					毎日
		20	自然休養林における施設利用者数		●			●	毎日
		21	携帯トイレ利用者数	●					1～3年毎
		22	レクリエーション利用者の動向				●		毎日
		23	レクリエーション利用や観光業の実態	●					10年毎
14	利用による植生等への影響把握	24	登山道周辺の荒廃状況、植生変化	●					1年毎・5年毎
		25	避難小屋トイレ周辺の水質	●					3年毎

4. モニタリングの評価

評価指標及び評価基準に基づき、科学委員会においてモニタリング結果の評価を実施する。その際、重要な事項について検討を深めるために、科学委員会のもとに設置されているワーキンググループにおいて、関連する評価項目に係る評価を実施する等、専門性を活かした効果的な評価を実施する。

また、モニタリング結果の評価は、概ね5年に1回程度を基本とするが、モニタリング結果については、随時広く情報を共有する。

5. 計画の見直し

(1) 計画期間

本計画は2012年から2021年までの今後10年間の中期モニタリング計画とし、概ね5年ごとに本計画の継続・変更について検討を行う。

(2) その他

関係行政機関は、本計画に基づき毎年のモニタリング事業内容を決定し、当該年度に実施すべきモニタリング、調査を可能な範囲で実施する。なお、必要に応じて年度毎に各機関の役割分担を見直すとともに、調査手法についてもこれまでの実施状況に応じ簡素化を実施するなど柔軟に見直すものとする。

関係行政機関が今後継続して行うモニタリング項目詳細(案)

管理目標	0 基礎的環境情報が把握されていること						
評価項目	-						
モニタリング項目	評価指標 (調査項目)	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考
気象データの測定	1	-	西部地域の大川の滝(標高0m)、小楊子林道(標高300m)、花山歩道(標高500m、700m、900m、1200m、1400m、1600m)の7箇所	10分毎	気温、湿度、地温	環境省	関係行政機関すべての観測データの一元的な情報提供について検討
			東部地域のヤクスギランド(標高100m)、淀川登山口(標高1300m)の2箇所	10分毎	地温、土壌水分		
			中央山岳部の新高塚小屋(標高1500m)の1箇所	10分毎	気温、湿度、降水量、地温、土壌水分		
			屋久島北部側(標高600m)、屋久島南部側(標高600m)、屋久島中央部の淀川登山口(標高1300m)の3箇所	10分毎	気温	林野庁	
			宮之浦(標高5m)、宮之浦林道(標高510m)、白谷(標高580m)、白谷雲水峡(標高630m)、小杉谷(標高680m)、永田カンカケ岳付近(標高730m)、ヤクスギランド(標高1000m)、大川林道(標高1020m)、淀川登山口(標高1380m)、黒味岳頂上付近(標高1800m)の10箇所	毎時	降水量		
			永田、吉田、上屋久町、屋久島事務所、安房西、栗生、屋久町、平内の8箇所	10分毎	降水量	鹿児島県	
			屋久島観測所(小瀬田)、尾之間	10分毎	気温、降水量、風向、風速、日照時間	気象庁	

大気組成、水質測定		-	-	屋久島町宮之浦公民館	毎年	S-O ₂ 、SPM、Nox、Ox、CO、 メタン 、 非メタン 炭化水素	鹿児島県	関係行政機関すべての観測データの一元的な情報提供について検討
	2	-	-	屋久島町営グラウンド(宮之浦)、屋久島町消防団中央分団宮之浦班消防詰所(宮之浦)、シーサイドホテル屋久島(宮之浦)の3カ所	毎月	降下ばいじん量		
	3	-	-	宮之浦川宮之浦橋地点、安房川安房橋地点、永田川永田橋地点、栗生川栗生橋地点の4地点	4年毎 (1地点年2回)	pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌群数		

管理目標		天然スギに代表される特異な自然景観が維持されていること						
評価項目		A 天然スギ林が適切に保護・管理され、天然スギが持続的に世代交代すること						
モニタリング項目	評価指標	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考	
天然スギ林の現状把握	4 天然スギ林の面積	天然スギ林の面積が大きく減少していないこと	屋久島の国有林全域に2km間隔で100m×100mの空中写真判読プロットを347箇所設定	10年毎	空中写真を用いて天然スギの個体数をカウントし、スギの分布密度を推定、経年変化を把握(近隣に現地調査プロットがある判読プロットではその値を用いて判読値を補正)	林野庁		
天然スギ林の動態把握	5 天然スギ林の種組成及び階層構造	天然スギ林の種組成及び階層構造に大きな変化がみられないこと	原生自然環境保全地域内の1箇所(標高1300mの地点に設定した1haの固定プロット)	10年毎	一定の大きさ以上の毎木調査を実施し、種組成及び階層構造の変化等を把握	環境省		
			東部地域1箇所(標高1200mの地点に設定した50㎡の固定プロット)	10年毎	一定の大きさ以上の個体調査(胸高直径、サンプル木の樹高の測定)を含むブラウン・ランケ法による植生調査、階層別の調査を実施し、種組成及び階層構造の変化等を把握(東・西・南・北・中部においては、ギャップが発生しても調査の継続性が保てるようプロットの面積を拡大)屋久島全域13箇所のデータは森林資源モニタリング調査の結果を利用	林野庁		
			西部地域2箇所(標高1200m、1300mの地点に設定した100㎡～200㎡の固定プロット)	10年毎				
			南部地域3箇所(標高1200m、1400m、1600mの地点に設定した140㎡～500㎡の固定プロット)	10年毎				
			北部地域4箇所(標高900m、1000m、1250m、1395mの地点に設定した185㎡～300㎡の固定プロット)	10年毎				
			中央地域3箇所(標高1200m、1400m、1600mの地点に設定した300㎡～500㎡の固定プロット)	10年毎				
屋久島全域4箇所(標高990m、1270m、1320m、1500mの地点に設定した1000㎡の固定プロット)	5年毎							

管理目標	天然スギに代表される特異な自然景観が維持されていること						
評価項目	B その他の特異な自然景観資源が適切に保護・管理されていること						
モニタリング項目	評価指標	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考
著名ヤクスギ等の巨樹・巨木の現状把握	6	著名ヤクスギである各個体の枝数、葉量	著名ヤクスギである各個体の枝数、葉量に著しい変化がみられないこと 縄文杉 夫婦杉 大王杉 上記以外(遺産地域外)のヤクスギの巨樹・著名木	毎年	・著名ヤクスギである個体の樹勢を目視により把握 ・樹勢の衰えが認められた個体については枝数、葉量を調査。葉量については写真撮影及び樹形図を作成	環境省 林野庁	実施主体は連携して効率的に巡視を実施
		著名ヤクスギ個体以外の巨樹・巨木の分布及び樹勢	著名ヤクスギ個体以外の巨樹・巨木が枯死していないか、樹勢が衰えていないか	巡視時に実施	定期的に巡視し写真撮影により確認	環境省	
その他の特異な自然景観資源の現状把握	7	特異な自然景観資源の現況	特異な自然景観資源の規模、形態等に著しい変化がみられないこと 島内全域21地点	毎年	定期的に巡視し写真撮影により確認	環境省	

管理目標	植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること						
評価項目	C 植生の垂直分布が維持されていること						
モニタリング項目	評価指標	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考
植生の垂直分布の動態把握	8	群集、種組成及び階層構造	群集、種組成及び階層構造に大きな変化がみられないこと	原生自然環境保全地域の林分別4箇所(標高300-570m、520-700m、1150-1200m、1300mに設定した固定プロット)	10年毎	一定の大きさ以上の毎木調査を実施し、種組成及び階層構造の変化等を把握	環境省
				東部地域6箇所(標高200m、400m、600m、800m、1000m、1200mの地点に設定した50m ² ～504m ² の固定プロット)	10年毎		
				西部地域8箇所(標高0m、200m、400m、600m、800m、1000m、1200m、1300mの地点に設定した100m ² ～762m ² の固定プロット)	10年毎	一定の大きさ以上の個体調査(胸高直径、サンプル木の樹高の測定)を含むブラウン・ブランケ法による植生調査、階層別の調査を実施し、種組成及び階層構造の変化等を把握 (東・西・南・北・中部においては、ギャップが発生しても調査の継続性が保てるようプロットの面積を拡大) 屋久島全域13箇所のデータは森林資源モニタリング調査の結果を利用	林野庁
				南部地域10箇所(標高5m、5m、200m、400m、600m、800m、1000m、1200m、1400m、1600mの地点に設定した140m ² ～500m ² の固定プロット)	10年毎		
				北部地域10箇所(標高0m、100m、440m、580m、800m、900m、1000m、1250m、1350m、1395mの地点に設定した185m ² ～600m ² の固定プロット)	10年毎		
				中央地域6箇所(標高1200m、1400m、1600m、1775m、1800m、1936mの地点に設定した16m ² ～500m ² の固定プロット)	10年毎		
屋久島全域13箇所(標高30m、50m、230m、350m、400m、420m、510m、710m、860m、990m、1270m、1320m、1500mの地点に設定した1000m ² の固定プロット)	5年毎						

管理目標	植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること							
評価項目	D 生物多様性が維持されていること							
モニタリング項目	評価指標	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考	
ヤクシカの動態把握及び被害状況把握	9	ヤクシカの個体数	ヤクシカの生息密度が適正に保たれていること	屋久島全域30地点	3～5年毎	糞粒法による密度調査	環境省	
				西部、北東部、南部など	1～5年毎	糞粒法、糞塊調査、スポットライトカウント法などによる密度調査	林野庁	
		ヤクシカの移動状況	ヤクシカの広域移動・分散	愛子岳周辺			環境省	
	10	地域ごとのヤクシカの捕獲頭数	捕獲頭数が適正な生息密度維持のために、寄与していること	屋久島全域	毎年	職員実行によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	林野庁	
						狩猟捕獲によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	鹿児島県	
						有害鳥獣捕獲によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	屋久島町	
11	ヤクシカによる植生被害及び回復状況	林床植生に過度な摂食がみられずに、森林生態系の維持及び適切な森林更新が期待されること	西部(5ヶ所)、小杉谷(4カ所)、安房(4カ所)、ヤクスギランド(2カ所)	1～3年毎	防鹿柵内外の植生調査を定期的を実施し、植生回復状況を把握するとともに、特定の植物にタグを装着し、追跡調査を実施	環境省 九州大学		
			西部、北東部、南部など	1～5年毎	植生調査プロットを設定し被害状況を調査するとともに、防鹿柵(植生保護柵)設置箇所の柵の内外の調査プロットにおいて植生の回復状況等を調査	林野庁		

管理目標	植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること							
評価項目	D 生物多様性が維持されていること							
モニタリング項目	評価指標	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考	
希少種・固有種の分布状況の把握	12	林庄部の希少種・固有種の分布・生育状況	希少種・固有種の生育地・生育個体数が減少していないこと	東部～南部地域において、希少種・固有種が集中的に分布する地点	5年毎	生育する希少種・固有種の株数、生育状況を記録	環境省	
	13	ヤクタネゴヨウの分布・生育状況	ヤクタネゴヨウの生育地・生育個体数が減少しておらず、稚幼樹の定着に伴う更新が期待されること	ヤクタネゴヨウが多く生育する西部地域に分布する標本個体(62本)	5年毎	胸高直径及び樹高の測定、生・枯死の別、活力度の判別 *活力度の判別は、樹勢、樹形、梢端部の葉量の状態、枯枝の率、着葉状況、根元・幹の腐朽・空洞の有無、表土壌のリター層の被覆状況等を点数化し、総合的な活力状況を評価	林野庁	
				ヤクタネゴヨウが多く生育する西部地域の4箇所(標高410m、470m、560m、700mの地点に設定した100㎡の固定プロット)	5年毎	一定の大きさ以上の個体調査(胸高直径及び樹高測定)を含むブラウン・ブランケ法による植生調査を実施し、種組成及び階層構造の変化等を把握		
外来種等による生態系への影響把握	14	外来植物アブラギリの分布状況	アブラギリの生育分布域が拡大していないこと	西部地域1箇所(標高200mの地点に設定した500㎡の固定プロット)	5年毎	・一定の大きさ以上の個体調査(胸高直径、サンプル木の樹高の測定)を含むブラウン・ブランケ法による植生調査を実施し、種組成及び階層構造の変化等を把握 ・低木層におけるアブラギリ個体の動態について把握	林野庁	
				国有林	毎年	巡視や入林者からの情報を通じてアブラギリの侵入状況などを把握		

管理目標	植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること							
評価項目	D 生物多様性が維持されていること							
モニタリング項目	評価指標	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考	
高層湿原の動態把握	15	湿原の面積	湿原面積が大きく減少していないこと	花之江河及び小花之江河	5年毎	湿原の水深、土砂堆積深(評価指標17)や植生群落分布(評価指標18)の変化から湿原面積の変化を把握	林野庁	
	16	湿原の水深、土砂堆積深及び落ち葉溜まりの分布面積	湿原の水深が維持され、土砂堆積深、落ち葉溜まりの分布面積に著しい変化がみられないこと	花之江河及び小花之江河	5年毎	・固定調査点を設置し、水深及び土砂堆積深を調査 ・湿原全域において、流路中の泥底の広葉樹を主体とした落ち葉溜まりを目視により確認し、分布を測定し面積を把握	林野庁	
高層湿原植生の動態把握	17	植生群落分布、種組成	植生群落分布面積及び位置、種組成に変化がみられないこと	花之江河及び小花之江河	5年毎	・湿原植生の群落の分布位置・範囲を空中写真により判読するとともに、現地確認調査を行い、湿原群落の位置及び面積を把握 ・固定調査プロットを設置し、定期的に種組成を調査	林野庁	

管理目標	植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること							
評価項目	D 生物多様性が維持されていること							
モニタリング項目	評価指標	評価基準	調査箇所等	頻度	調査内容等	実施主体	備考	
高層湿原の動態把握	15	湿原の面積	湿原面積が大きく減少していないこと	花之江河及び小花之江河	5年毎	湿原の水深、土砂堆積深(評価指標17)や植生群落分布(評価指標18)の変化から湿原面積の変化を把握	林野庁	
	16	湿原の水深、土砂堆積深及び落ち葉溜まりの分布面積	湿原の水深が維持され、土砂堆積深、落ち葉溜まりの分布面積に著しい変化がみられないこと	花之江河及び小花之江河	5年毎	・固定調査点を設置し、水深及び土砂堆積深を調査 ・湿原全域において、流路中の泥底の広葉樹を主体とした落ち葉溜まりを目視により確認し、分布を測定し面積を把握	林野庁	
高層湿原植生の動態把握	17	植生群落分布、種組成	植生群落分布面積及び位置、種組成に変化がみられないこと	花之江河及び小花之江河	5年毎	・湿原植生の群落の分布位置・範囲を空中写真により判読するとともに、現地確認調査を行い、湿原群落の位置及び面積を把握 ・固定調査プロットを設置し、定期的に種組成を調査	林野庁	

管理機関が今後継続して行うモニタリング実施予定(案)

モニタリング項目		評価指標(調査項目)		実施主体	実施頻度	開始年	2011以前	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021			
1	気象データの測定	1	気温、湿度、地温、土壌水分、降水量等	環境省	10分毎	2011	2011	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
				林野庁	10分毎～毎時	1996	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
				鹿児島県	10分毎	1998	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
				気象庁	10分毎	1937	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	大気組成、水質測定	2	降下ばいじん量	鹿児島県	毎月	1970	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		3	pH, DO, BOD, COD, SS, 大腸菌群数	鹿児島県	地点別に4年毎	1988	1988/2001～2011	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	天然スギ林の現状把握	4	天然スギ林の面積	林野庁	10年毎	1994	1994/(2009現況)/2010									●				
4	天然スギ林の動態把握	5	天然スギ林の種組成及び階層構造	環境省	10年毎	1983	1983/1993/(2003)		●									●		
				林野庁	地域別に5～10年毎	1999	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	著名ヤクスギ等の巨樹・巨木の現状把握	6	著名ヤクスギである各個体の枝数、葉量	環境省	毎年	1970s	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
				林野庁	毎年		継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	その他の特異な自然景観資源の現状把握	7	特異な自然景観資源の現況	環境省	毎年	1998	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
7	植生の垂直分布の動態把握	8	群集、種組成及び階層構造	環境省	10年毎	1983	1983/1993		●									●		
				林野庁	地域別に5～10年毎	1999	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	ヤクシカの動態把握及び被害状況把握	9	ヤクシカの個体数	環境省	3～5年毎	2008	2008/2009	●			●			●				●		
				林野庁	1～3年	2009	継続	●	●	●										
		10	ヤクシカの捕獲頭数	林野庁	毎年	2011	2011	●	●	●										
				鹿児島県	毎年	2007	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
				屋久島町	毎年		継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	ヤクシカによる植生被害及び回復状況	環境省	1～3年毎	2010	継続	●	●			●					●					
		林野庁	1～3年	2009	継続	●	●	●												
9	希少種・固有種の分布状況の把握	12	林庄部の希少種・固有種の分布・生育状況	環境省	5年毎	2011	2011	●					●							
		13	ヤクタネゴヨウの分布・生育状況	林野庁	5年毎	1999	2004/2009			●						●				
10	外来種等による生態系への影響把握	14	外来植物アブラギリの分布状況	林野庁	毎年、5年毎	2010	2010	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
11	高層湿原の動態把握	15	湿原の面積	林野庁	5年毎	1997	1997/2000/2006/2010				●						●			
		16	湿原の水深、土砂堆積深及び落ち葉だまりの分布面積	林野庁	5年毎	2000	2000/2006/2010				●						●			
12	高層湿原植生の動態把握	17	湿原の植生群落分布、種組成	林野庁	5年毎	1997	1997/2000/2006/2010				●					●				
13	利用状況の把握	18	屋久島入島者数	鹿児島県	毎日	1971	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		19	主要山岳部における登山者数	環境省	毎日	2000	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		20	自然休養林における施設利用者数	林野庁	毎日	1993	継続	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		21	携帯トイレ利用者数	環境省	1～3年毎	2009	継続	●	●			●			●					
		22	レクリエーション利用者の動向	屋久島町	毎日	2012		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
14	利用による植生等への影響把握	23	レクリエーション利用や観光業の実態	環境省	5～10年毎	1995	1995/2001/2003			●										
		24	登山道周辺の荒廃状況、植生変化	環境省	毎年、5年毎	2010	2010/2011	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		25	避難小屋トイレ周辺の水質	環境省	3年毎	2008	2008	●				●			●					